

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシン ダイシヨウシュウトウガクエン 学校法人 大乘淑徳学園								
フリガナ大学の名称	シュウトウダイガク 淑徳大学（Shukutoku University）								
大学本部の位置	千葉県千葉市中央区大巖寺町200番地								
大学の目的	本学は、大乘仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	地域創生学部では「地域の見方や考え方を理解させ、実践的かつ体験的な学習活動を通して、地域資源の活用による地域文化の振興や地域産業の発展を担う職業人として必要な資質や能力を育成する」ことを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	地域創生学部 【College of Regional Development】	年	人	年次人	人		年月第年次	埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番1	
	地域創生学科 【School of Regional Development】	4	95	-	380	学士 (地域創生学) 【Bachelor of Regional Development】	令和5年4月第1年次	同上	
	計		95	-	380				
同設者内に おける変更 (定員の変更)	淑徳大学								
	<p>地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律第13条第1項第1号の適用を受け、淑徳大学人文学部に人間科学科の設置、経営学部の所在地変更及び経営学部経営学科の収容定員増 経営学部の所在地変更及び経営学部経営学科の収容定員増 経営学部〔所在地の変更〕 変更前：埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番地1 変更後：東京都板橋区前野町6丁目36番4号 経営学科【定員増】(40) (令和4年3月収容定員に係る認可申請)</p> <p>人文学部（所在地：東京都板橋区前野町6丁目36番4号） 人間科学科 (100) (令和4年3月収容定員に係る認可申請) (令和4年4月学科設置届出)</p> <p>地域創生学部（所在地：埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番地1） 地域創生学科 (95) (令和4年3月収容定員に係る認可申請)</p> <p>淑徳大学短期大学部(廃止) (所在地：東京都板橋区前野町6丁目36番4号) 健康福祉学科 社会福祉専攻 (廃止) (△50) 介護福祉専攻 (廃止) (△40) ※令和5年4月学生募集停止 こども学科 (廃止) (△250) ※令和5年4月学生募集停止</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実習	計				
	地域創生学部地域創生学科	49 科目	24 科目	11 科目	84 科目	124 単位			
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員
	新設	地域創生学部 地域創生学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			7 (7)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	16 (6)
		人文学部 人間科学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	35 (17)
	計	12 (12)	4 (4)	1 (1)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	- (-)	

※令和4年4月設置届出

組 織 の 概 要	総合福祉学部 社会福祉学科	14 (14)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	90 (90)
	教育福祉学科	11 (11)	9 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (19)	0 (0)	46 (46)
	実践心理学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	23 (23)
	看護栄養学部 看護学科	8 (8)	9 (9)	3 (3)	11 (11)	31 (31)	3 (3)	66 (66)
	栄養学科	5 (5)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	5 (5)	20 (20)
	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	70 (70)
	経営学部 経営学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	46 (45)
	観光経営学科	5 (5)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	30 (30)
	教育学部 こども教育学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	51 (51)
	人文学部 表現学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	29 (29)
	歴史学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	35 (35)
	計	84 (84)	47 (46)	4 (4)	18 (18)	153 (152)	8 (8)	- (-)
	合計	96 (96)	51 (50)	5 (5)	24 (24)	176 (175)	8 (8)	- (-)
教員 以外 の職 員の 概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	109人 (109)		129人 (129)		238人 (238)		
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員	1 (1)		15 (15)		16 (16)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		65 (64)		65 (64)		
計	110 (110)		209 (208)		319 (318)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	113,161.02 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	113,161.02 m <sup>2</sup>			
	運 動 場 用 地	82,106.86 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	82,106.86 m <sup>2</sup>			
	小 計	195,267.88 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	195,267.88 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	6,880.96 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	6,880.96 m <sup>2</sup>			

大学全体

大学全体  
・千葉キャンパス  
109,182.41m<sup>2</sup>  
総合福祉学部、  
コミュニティ政策学  
部、看護栄養学  
部専用  
内、借用面積：  
5,896.15m<sup>2</sup>  
借用期間：  
H3.1.1～  
H54.3.31  
・千葉第二キャンパス  
16,774.73m<sup>2</sup>  
看護栄養学部専  
用  
内、借用面積：  
16,774.73m<sup>2</sup>  
借用期間：  
H18.4.1から  
30年間  
・埼玉キャンパス  
54,810.00m<sup>2</sup>  
教育学部、地域  
創生学部専用  
※運動場用地  
教育学部、地域  
創生学部、経営  
学部、人文学部  
と共用  
・東京キャンパス  
14,500.74m<sup>2</sup>  
経営学部、人文  
学部、淑徳大学  
短期大学部と令  
和5年度末まで  
共用  
内、借用面積：

合 計		202,148.84 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	202,148.84 m <sup>2</sup>	2,020.50m <sup>2</sup> 借用期間： H18.4.1から30 年間 短期大学設置基準 6,800m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 ・東京キャンパス 淑徳大学短期大学 部と令和5年度末 まで共用 短期大学設置基準 5,750m <sup>2</sup>				
		77,864.37 m <sup>2</sup> ( 59,613.29 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 13,540.06 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 2,101.62 m <sup>2</sup> )	77,864.37 m <sup>2</sup> ( 75,254.97 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	112 室	63室	28 室	21 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 地域創生学部地域創生学科		室 数 12 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	地域創生学部 地域創生学科	193,242 [32,322] (184,298 [32,298])	944 [205] (919 [200])	(12,904 [12,904]) (12,854 [12,854])	5,005 (4,925)	3,668 (3,372)	9 (9)			
	計	193,242 [32,322] (184,298 [32,298])	944 [205] (919 [200])	(12,904 [12,904]) (12,854 [12,854])	5,005 (4,925)	3,668 (3,372)	9 (9)			
図書館		面積 6,483.77 m <sup>2</sup>	閲覧座席数 912 席	収 納 可 能 冊 数 579,928 冊		大学全体				
体育館		面積 5,051.88 m <sup>2</sup>	体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート3面、弓道場、武道場				大学全体			
経 費 積 立 方 法 の 概 要	経費の 見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は、 大学全体
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		15,300千円	15,930千円	15,840千円	15,840千円	－千円	－千円	
		図書購入費	14,373千円	12,873千円	12,873千円	12,873千円	12,873千円	－千円	－千円	
	設備購入費	14,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	－千円	－千円	図書費には電子 ジャーナル、データベース の整備費(運用コスト 含む)を含む	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,400千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大 学 の 名 称		淑徳大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
総合福祉学部		年	人	年次 人	人		倍		千葉県千葉市中央 区大巖寺町200番地	
社会福祉学科		4	200	-	800	学士 (社会福祉学)	1.01	昭和40年度		
教育福祉学科		4	150	-	600	学士 (教育福祉学)	1.00	平成23年度		
実践心理学科		4	100	-	400	学士 (心理学)	1.05	平成13年度		
看護栄養学部							0.99		千葉県千葉市中央 区仁戸名町673番地	
看護学科		4	100	-	400	学士 (看護学)	1.06	平成19年度		
栄養学科		4	80	-	320	学士 (栄養学)	0.92	平成24年度		
コミュニティ政策学部							1.12		千葉県千葉市中央 区大巖寺町200番地	
コミュニティ政策学科		4	95	-	380	学士 (コミュニ ティ政策学)	1.12			

既設大学等の状況	経営学部						1.04		埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番1	※令和5年度より年次進行で東京都板橋区前野町6丁目36番4号に移転
	経営学科	4	110	-	440	学士(経営学)	1.04	平成24年度		
	観光経営学科	4	90	-	360	学士(観光経営学)	1.02	平成24年度		
	教育学部						0.97		埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番1	※令和2年度入学定員増(50人)
	こども教育学科	4	150	-	550	学士(教育学)	0.97	平成25年度		
	人文学部						1.07		東京都板橋区前野町6丁目36番4号	
	表現学科	4	85	-	340	学士(文学)	1.06	平成26年度		
	歴史学科	4	60	-	240	学士(文学)	1.09	平成26年度		
	大学院 総合福祉研究科						0.50		千葉県千葉市中央区大巖寺町200番地	
	社会福祉学専攻 博士前期課程	2	5	-	10	修士(社会福祉学)	0.33	平成元年度		※令和3年度入学定員減(△10人)
	社会福祉学専攻 博士後期課程	3	3	-	11	博士(社会福祉学)	0.20	平成7年度		※令和3年度入学定員減(△2人)
	心理学専攻 修士課程	2	15	-	30	修士(心理学)	0.69	平成15年度		
	大学院 看護学研究科						0.70		千葉県千葉市中央区仁戸名町673番地	
看護学専攻 修士課程	2	5	-	10	修士(看護学)	0.70	平成28年度			
大学の名称	淑徳大学短期大学部									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
健康福祉学科						0.86		東京都板橋区前野町6丁目36番4号	※令和5年度より学生募集停止(令和3年7月届出済)	
社会福祉専攻	2	50	-	100	短期大学士(社会福祉)	1.04	昭和36年度			
介護福祉専攻	2	40	-	80	短期大学士(社会福祉)	0.65	平成3年度			
こども学科	2	250	-	500	短期大学士(保育・教育)	0.73	平成18年度	東京都板橋区前野町6丁目36番4号	※令和5年度より学生募集停止(令和3年7月届出済)	
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
基礎教育科目	の学	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1①	1													集中		
	養	利他共生	1①	1			○										兼1		
	習	小計(2科目)	-	2	0	0	-			1	0	0	1	0			兼1	-	
	成	情報リテラシー	1①	1				○										兼3	
		データリテラシー	1②	1				○										兼3	
		統計分析法	2①		1			○										兼1	
		問題解決法	2②	1				○		1									
		創造思考法	4④	1				○		2									
		小計(5科目)	-	4	1	0	-			2	0	0	0	0				兼4	-
		コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1①	1				○										兼1	
		コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1②	1				○										兼1	
		コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	1④	1				○										兼1	
		コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2①		1			○										兼1	
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	1①	1				○										兼1	
		表現技法Ⅱ(作文・論文)	1④	1				○										兼1	
		表現技法Ⅲ(発表・討論)	2①	1				○		1									
		表現技法Ⅳ(企画・立案)	2②		1			○		1									
		表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3①		1			○		1									
		小計(9科目)	-	6	3	0	-			1	0	0	0	0				兼2	-
		自己管理と社会規範	1①	1				○						1					
		チームワークとリーダーシップ	2①	1				○										兼1	
		地域活動と社会貢献	2②	1				○					1						
		他者理解と信頼関係	2②	1				○		1									
		小計(4科目)	-	4	0	0	-			1	0	0	1	0				兼1	-
		社会的・職業的自立Ⅰ	2③	1				○		1									
		社会的・職業的自立Ⅱ	2④	1				○		1									
	小計(2科目)	-	2	0	0	-			1	0	0	0	0	0				-	
	人間心理と人間行動	2・3・4①		1			○						1						
	現代家族と育児介護	2・3・4①		1			○										兼1		
	健康管理と身体活動	2・3・4②		1			○										兼1		
	スポーツと運動科学	2・3・4④		1			○										兼1		
	日本社会と歴史文化	2・3・4②		1			○		1			1							
	生命科学と物理化学	2・3・4③		1			○										兼1		
	小計(6科目)	-	0	6	0	-			1	0	0	2	0				兼3	-	
	情報社会とデータサイエンス	2・3・4②		1			○										兼1		
	法律社会と法律問題	2・3・4①		1			○										兼1		
	福祉政策と福祉制度	2・3・4②		1			○										兼1		
	日本国家と政治行政	2・3・4②		1			○		1										
	経済構造と経済政策	2・3・4③		1			○		1										
	現代医療と生命倫理	2・3・4①		1			○										兼1		
	小計(6科目)	-	0	6	0	-			2	0	0	0	0				兼4	-	
	国際社会と国際問題	2・3・4④		1			○										兼1		
	世界宗教と民族問題	2・3・4②		1			○										兼1		
	世界動向と国際貢献	2・3・4②		1			○										兼1		
	国際平和と安全保障	2・3・4②		1			○										兼1		
	国際関係と日本外交	2・3・4③		1			○					1							
	地球環境と環境対策	2・3・4①		1			○										兼1		
	小計(6科目)	-	0	6	0	-			0	0	0	1	0				兼4	-	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	入専門科目導	地域創生総論	1①	2			○			5						オムニバス・共同(一部)
		小計(1科目)	-	2	0	0	-			5	0	0	0	0	0	-
	専門基礎科目	社会学	1②	2			○			1						
		文化学	1②	2			○			1						
		経済学	1②	2			○			1						
		地理学	1③	2			○			1						
		人口論	1③	2			○			1						
		資源論	1③	2			○			1						
		小計(6科目)	-	12	0	0	-			4	0	0	0	0	0	-
	専門基礎科目	社会集団・組織論	1③	2			○			1						
		社会構造・変動論	1④	2			○			1						
		社会政策・制度論	1④	2			○			1						
		社会心理学	1④	2			○					1				
		文化社会学	2①		2		○				1					
		産業社会学	2①		2		○					1				
		社会問題論	2①	2			○			2						オムニバス・共同(一部)
		小計(7科目)	-	10	4	0	-			2	1	1	1	0	0	-
	専門基礎幹科目	地域社会・文化論	2②		2		○			2						オムニバス・共同(一部)
		地域振興・交流論	2②		2		○				1					
		地域産業・企業論	2②		2		○					1				
		地域経済・財政論	2②		2		○			2						オムニバス・共同(一部)
		地域政策・制度論	2③		2		○			1						
		比較地域論	2③	2			○			1						
		小計(6科目)	-	2	10	0	-			5	1	1	0	0	0	-
	専門展開科目	地域文化活動論	2④		2		○			1	1		1			オムニバス・共同(一部)
		地域文化資源論	2④		2		○				1					
		地域文化政策論	3①		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
		文化財・文化施設論	3①		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
		地域中小企業論	2④		2		○					1				
		地域産業資源論	2④		2		○			1						
		地域産業政策論	3①		2		○			1						
		新事業・商品開発論	3①		2		○			1			1		兼1	オムニバス・共同(一部)
		小計(8科目)	-	0	16	0	-			2	1	1	2	0	兼1	-
	専門実習科目	地域理解実習Ⅰ	1①	1					○	4	1	1	3			共同
		地域理解実習Ⅱ	1②	1					○	1			1			共同
		地域理解実習Ⅲ	1③	1					○	1	1		1			共同
	地域理解実習Ⅳ	1④	1					○	2		1				共同	
	地域理解実習Ⅴ	2①	1					○	3		1				共同	
	地域理解実習Ⅵ	2②	1					○	4	1	1	3			共同	
	地域調査法入門	2③	2			○			1		1	2			共同	
	地域調査法演習	2④	2				○		1		1	2			共同	
	地域調査法実習	3①	2					○	1		1	2			共同	
	地域資源活用入門	2③	2			○			2		1				オムニバス・共同(一部)	
	地域資源活用演習	2④	2				○		4	1	1	1			共同	
	地域資源活用実習	3①	2					○	4	1	1	1			共同	
	地域創生実習Ⅰ	3②	4					○	4	1	1	3			共同	
	地域創生実習Ⅱ	3③	8					○	4	1	1	3			共同	
	地域創生実習Ⅲ	3④	8					○	4	1	1	3			共同	
	小計(15科目)	-	38	0	0	-			5	1	1	3	0	0	-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻 科目 目研	卒業研究	4通	8				○		5	1	1			
	小計(1科目)	-	8	0	0		-		5	1	1	0	0	0
	合計(84科目)	-	90	52	0		-		7	1	1	3	0	兼16
学位又は称号		学士(地域創生学)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係						
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<b>【卒業要件】</b> 地域創生学部地域創生学科における卒業要件は、学部に4年以上在学し、124単位以上を修得することとする。 <b>【履修方法】</b> 地域創生学部地域創生学科における履修方法は、体系的な授業科目の履修により単位を修得することとし、基礎教育科目については、必修科目18単位を含む36単位以上を修得することとし、専門教育科目については、必修科目72単位を含む88単位以上を修得することとする。 (履修科目の登録の上限：36単位(年間))						1学年の学期区分			4期					
						1学期の授業期間			8週					
						1時限の授業時間			90分					

様式第2号 (その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
通大 科学 目共	共生論	1・2・3・4後		2		○								兼1
	宗教と科学	1・2・3・4前		2		○								
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼1
基礎 教育 科目	英語 I (基礎)	1前	2			○								兼5
	英語 II (応用)	1後	2			○								兼4
	英語 III (実践)	2前	2			○								兼1
	小計(3科目)	—	4	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼5
	表現技法 I (読解、分析)	1前	2				○							兼3
	表現技法 II (作文、論文)	1後	2				○							兼3
	表現技法 III (発表、討論)	2前	2				○			1				
	表現技法 IV (企画、立案)	3前	2				○			1				
	表現技法 V (プレゼンテーション)	3後	2				○							兼1
	小計(5科目)	—	6	4	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼4
	情報処理法	1前	2				○			1	1			
	情報活用法	1後	2				○							
	情報管理法	2前	2				○							兼2
	情報分析法	2後	2				○							兼1
	小計(4科目)	—	4	4	0	—	—	—	1	2	0	0	0	兼2
問題解決技法	3後	2				○			1	1				
総合課題研究	4後	2				○			5	4		2		
小計(2科目)	—	4	0	0	—	—	—	6	4	0	2	0	0	
基礎 教育 科目	現代人の生活倫理	1・2・3・4前		2		○								兼2
	人間の心理と行動	1・2・3・4前		2		○								兼4
	健康科学と身体運動	1・2・3・4前		2		○								兼2
	心と身体の健康管理	1・2・3・4後		2		○								兼2
	チームワークとリーダーシップ	1・2・3・4後		2		○								兼2
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼10
総合 教育 科目	日本社会と歴史文化	1・2・3・4前		2		○								兼2
	アジアの文化と暮らし	1・2・3・4後		2		○								兼1
	文学作品と文学表現	1・2・3・4後		2		○								兼2
	伝統文化と民俗世界	1・2・3・4前		2		○								兼1
	多文化と異文化理解	1・2・3・4後		2		○								兼2
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7
総合 教育 科目	情報社会とデータサイエンス	1・2・3・4前		1		○			1					
	経済構造と経済政策	1・2・3・4前		2		○								兼2
	法律社会と人権問題	1・2・3・4前		2		○				1		1		兼1
	政治社会と行政問題	1・2・3・4後		2		○								兼2
	福祉政策と社会保障	1・2・3・4前		2		○				2				兼1
	社会貢献と地域活動	1・2・3・4後		2		○								兼3
小計(6科目)	—	0	11	0	—	—	—	1	3	0	1	0	兼9	
国際 理 解 科 目	宗教社会と民族文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	国際関係と外交課題	1・2・3・4後		2		○								兼1
	世界動向と国際貢献	1・2・3・4前		2		○								兼3
	環境保護と野外活動	1・2・3・4後		2		○								兼1
	生命科学と生命倫理	1・2・3・4後		2		○								兼1
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	導入科目	コミュニティ政策論	1前	2			○			1							
		地域総合論	1前	2			○			1							
		小計(2科目)	—	4	0	0	—			2	0	0	0	0	0	0	
	基礎科目		社会学概論	1前	2			○			1						
			経済学概論	1後	2			○			1						
			法学概論	1後	2			○				1					
			政策学概論	1後	2			○			1						
			小計(4科目)	—	8	0	0	—			3	1	0	0	0	0	0
	基幹科目	社会学分野	現代社会論	1後	2			○			1						
			社会調査論	1前	2			○									兼1
			社会調査法	1後	2			○				1					
			小計(3科目)	—	0	6	0	—			1	1	0	0	0	0	兼1
		経済学分野	財政学	2後	2			○						1			
			ミクロ経済学	2前	2			○									兼1
			マクロ経済学	2前	2			○			1						
			経済政策論	2後	2			○				1					
			小計(4科目)	—	0	8	0	—			1	1	0	1	0	0	兼1
		法学分野	憲法	2前	2			○						1			
			民法(総則・物権法)	2前	2			○					1				
			債権法	2後	2			○					1				
			刑法	2後	2			○									兼1
			小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	1	0	1	0	0	兼1
	政策学分野	公共哲学	2前	2			○									兼1	
		行政学	2後	2			○									兼1	
		政策過程論	2前	2			○									兼1	
		小計(3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	
	社会学分野	地域社会論	2・3前	2			○									兼1	
		社会心理学	2・3後	2			○									兼1	
		比較社会論	3・4前	2			○									兼1	
		統計解析法	2・3前	2			○			1							
社会統計学		2・3前	2			○									兼1		
量的解析法		2・3後	2			○			1								
社会調査実習		3・4前	2					○	1	1							
小計(7科目)		—	0	14	0	—			2	1	0	0	0	0	兼4		
経済学分野	地方財政論	2・3後	2			○						1					
	計量経済学	2・3後	2			○									兼1		
	公共経済論	3・4前	2			○						1					
	地域経済論	3・4後	2			○				1							
	金融論	2・3前	2			○									兼1		
	労働政策論	2・3後	2			○									兼1		
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			0	1	0	1	0	0	兼3		
法学分野	地方自治法	3・4前	2			○						1					
	行政法(組織・作用法)	2・3後	2			○						1					
	行政救済法	3・4前	2			○						1					
	商法・会社法	3・4前	2			○									兼1		
	社会保障法	3・4後	2			○									兼1		
	経済法	3・4前	2			○									兼1		
	労働法	3・4後	2			○				1							
小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	1	0	1	0	0	兼3			
政策学分野	公共管理論	2・3後	2			○									兼1		
	地方自治行政論	3・4前	2			○									兼1		
	政策立案論	2・3後	2			○									兼1		
	政策評価論	3・4前	2			○											
	公共政策論	2・3後	2			○			1								
	地域政策論	3・4前	2			○				1							
	比較政策論	3・4後	2			○									兼1		
小計(7科目)	—	0	14	0	—			1	1	0	0	0	0	兼3			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	関連科目	地域振興論		2		○										兼1	
		NPO論	3・4後	2		○										兼1	
		キャリアデザイン	2前	2		○				1			1				
		地域スポーツ概論	2・3前	2		○											兼1
		スポーツマネジメント	3・4前	2		○											兼1
		社会福祉論	3・4前	2		○											
		社会保障論	3・4後	2		○					1						
		地域福祉論	3・4後	2		○					1						
		地域環境論	3・4後	2		○											兼1
		家族社会学	3・4後	2		○					1						
		犯罪社会学	3・4後	2		○					1						
		社会病理学	3・4前	2		○					1						
		地域防災論	3・4前	2		○											兼1
		地域防犯論	3・4後	2		○											兼1
		危機管理論	3・4後	2		○											兼1
		産業社会学	3・4前	2		○											兼1
		労働社会学	3・4後	2		○											兼1
		産業心理学	3・4後	2		○											兼1
		教育社会学	3・4前	2		○											兼1
		社会教育学	3・4後	2		○											兼1
		教育行政学	3・4後	2		○											兼1
		マーケティング論	2後	2		○											兼1
		マーケティング調査法	3前	2		○											兼1
		マーケティング実習	3後	2		○			○								兼1
小計(24科目)	—	—	0	48	0	—	—	—	2	3	0	1	0	—	兼14		
実践科目		コミュニティ研究Ⅰ	1前	2			○		6	4		2				兼2	
		コミュニティ研究Ⅱ	1前	2			○		6	4		2				兼1	
		コミュニティ研究Ⅲ	1後	2			○		6	4		2				兼2	
		ケーススタディⅠ	3前	2			○		5	4		2					
		ケーススタディⅡ	3後	2			○		5	4		2					
		ワークショップⅠ	4前	2			○		5	4		2					
		ワークショップⅡ	4後	2			○		5	4		2					
小計(7科目)	—	—	14	0	0	—	—	6	4	0	2	0	—	兼3			
合計(112科目)		—	44	185	0	—	—	—	6	4	0	2	0	—	兼70		
学位又は称号	学士(コミュニティ政策学)	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係、経済学関係														
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
<b>【卒業要件】</b> コミュニティ政策学部における卒業要件は、学部に4年以上在学し、124単位以上を修得することとする。 <b>【履修方法】</b> コミュニティ政策学部における履修方法は、体系的な授業科目の履修により単位を修得することとし、基礎教育科目については、必修科目18単位を含む34単位以上を修得することとし、専門教育科目については、必修科目26単位を含む90単位以上を修得することとする。 (履修科目の登録の上限:36単位(年間))							1学年の学期区分		2 期								
							1学期の授業期間		15 週								
							1時限の授業時間		90 分								

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	初年次セミナー (学習の目的と技術)	大学教育の目的と意義の理解とともに、4年間の学習計画の立て方や学生生活のあり方について学習する。また、講義ノートのとり方、文献検索や資料収集など図書館の活用方法、専門書などの読み方など、大学での学生の自主的な学習のために必要となる基本的な知識と技能について学習する。さらに、大学生に求められる常識や生活態度及び教職員や仲間と適切な人間関係を築くためのコミュニケーションのあり方について学習する。	集中
	利他共生	自校教育の中核である本科目を履修することで、受講生が建学の精神である大乘仏教を基軸とした「利他共生」を正しく理解するとともに、本学で学ぶことの意義や意味を共に考えることを通じて、自らを肯定的に捉えて有意義な学生生活を過ごしていける契機とし、また、将来の目標を明確にしていく事を目的とする。	
思考 力 の 養 成	情報リテラシー	データサイエンスとしての基礎知識とリテラシーである、文献やデータを読み解き、分析、考察、表現するリテラシーを身に付ける。専門教育で利用するデータの分析結果の表現や考察に必要な基礎技能を身に付け、日常生活や社会の場で有効に利活用できることを目標とする。授業では、データの分析や考察、表現し読み解くスキルを身に付け、文書処理及び表現ツールを用いた演習を通して、データとツールの利活用を学ぶ。文書処理の知識とスキルの習得を図り、分析や考察のための基礎的な文書表現形式を理解する。	
	データリテラシー	実データとデータ解析ツールを用いた演習を通して、データを読み、処理し、説明するというデータサイエンスの基礎知識と利活用を学ぶ。専門教育で利用する集計や可視化といった基本的なデータ分析の基礎技能を身に付け、日常生活や社会の場で有効に利活用できることを目標とする。授業では、データを分析や考察、表現し読み解くスキルを身に付け、表計算の知識とスキルの習得を図り、その可視化のための図表表現を理解するなど、データを扱うための力を身に付ける。	
	統計分析法	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的とする。統計資料に基づくデータ分析は、現象を理解するための有益な手段であることについて理解するとともに、具体的な統計資料による統計データの見方や要約方法、分析方法、活用方法などの基本的な知識と技能について学習する。	
	問題解決法	主体的に問題を発見し、問題解決に必要な情報を収集、分析、整理し、問題解決にむけた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。現代社会における重要な特定の主題や現代社会が直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法と対策の設定方法について学習するとともに、情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現するための基礎的な知識と技能について学習する。	
	創造思考法	これまでに獲得した知識、技能、態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる総合的な実践能力を養成することを目的とする。各自の学習課題に即した学習計画を設定し、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、自己の考えを展開することについて学習するとともに、課題学習による報告書の作成を通して、卒業後も自律・自立して学習できる態度を身に付ける。	
	コミュニケーション英語 Ⅰ（基礎）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、英語による日常的な英会話を中心とする基礎的なコミュニケーション能力の習得を図る。	
	コミュニケーション英語 Ⅱ（応用）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、英語Ⅰ（基礎）の授業内容を踏まえ、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、日常的な英会話を中心とする応用的なコミュニケーション能力の習得を図る。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、英語Ⅱ(応用)の授業内容を踏まえ、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、日常的な英会話を中心とする実践的なコミュニケーション能力の習得を図る。	
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、英語Ⅱ(応用)の授業内容を踏まえ、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、口頭表現、文章表現、ディスカッション、ディベートなどの実践的な英語運用能力の習得を図る。	
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による文章の読解と分析に関する基本的な能力を養成することから、新聞記事などの朗読を通じて、効果的な朗読法について学習するとともに、情報の客観的な事実を整理し、整理した情報を分析するための方法論について学ぶ。	
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による作文や論文などの文章作成に関する基本的な能力を養成することから、良い文章を書くための基本的な技術やルールを学ぶとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術について学習する。	
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による発表や討論のための基本的な方法論を習得することから、発声や発音の訓練を通して、実践的なスピーチ能力を高めるとともに、的確な意見の述べ方や議論の進め方、論理的思考、客観的思考などについて学習する。	
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、企画や立案のための基本的な知識と能力について学習するとともに、企画書の事例研究を通して、独創的な視点や発想能力を高めるとともに、実践的な企画能力や立案能力を向上するための構成と制作技術について学習する。	
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、プレゼンテーションに関する基礎的な知識と技能について学習するとともに、説得力や自己表現力を高め、日常生活やビジネスなどにおけるプレゼンテーションの際の留意点と効果的なプレゼンテーション技法について学習する。	
人間力の養成	自己管理と社会規範	日々の生活全般にわたって、自らを律した行動ができるとともに、様々な生活場面における善悪や正誤を判断するための基準としての社会的規範やモラルを有して、自己の良心及び社会的規範や社会的ルールに従った行動ができることを目的とする。人間と人間の間での共存のための社会的規範や原理についての理解と社会的規範としての道徳の本質についての理解を深めるとともに、道徳の意義や人間存在の基盤となる人生観や世界観について、日常生活場面を通じて、体験的に理解する。	
	チームワークとリーダーシップ	他者と協調・協働して行動することができる資質や他者に方向性を示し、目標を達成するために動員できる能力を養成するとともに、自ら目的を設定し確実に行動する態度や物事に進んで取り組む姿勢を涵養することを目的とする。集団に属しているメンバーが同じ目標を達成するために行う作業、協力、意識、行動について、体験学習を通じて理解を深めるとともに、主体的な判断や行動と目的や方向に向かって他者を教え導くための知識や多くの人々をまとめて率いるための方法論について実践的に学習する。	
	地域活動と社会貢献	社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことを目的として、社会貢献の基本的意義と地域活動の社会的役割について理解する。具体的には、社会貢献の意義と役割についての理解のうえで、地域活動の現状と課題について認識したうえで、ボランティア等の地域活動を通して、体験的に学習させることにより、地域活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献と地域活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意思を高める。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会力の 養成	他者理解と信頼関係	自己や自我の認識、自己と他者との関係、他者相互間の関係などの理解と人間関係の多様なあり方について理解を深めるとともに、他者との円滑な信頼関係の構築に積極的に取り組むことができる姿勢を養うことを目的とする。集団や組織の場あるいは個人的な場における感情的な面も含めた人間と人間の関係について学習するとともに、他者を理解する視点について掘り下げて考察する。また、互いに相手のことを思い自由にコミュニケーションできる関係とその関係を築く上で重要となる要素について学習する。	
	社会的・職業的自立Ⅰ	学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。職業現場見学を通して、働く意味や職業に対する意識・動機付けと興味・関心の醸成を図るとともに、卒業生や外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観を養成する。また、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について学習する。	
人間の 理解	社会的・職業的自立Ⅱ	学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。外部講師による業界・業種・職種などの企業研究や企業が求める人材像、企業の仕組みなど職業理解を図るとともに、ビジネスマナーをはじめとするオフィスワークに関する知識の習得を図る。また、生涯学習の観点から目標設定や目標達成のための考え方について考察する。	
	人間心理と人間行動	ライフステージごとの心理の発達過程について理解したうえで、ストレスや心理的不適合などの心理状況が与える人間行動への影響について解説する。また、人間心理の発達について、発達段階区分のとらえ方と特徴について概説したうえで、日常生活の中から心理状況に影響を与える事柄を取り上げて考察することにより、人間心理の諸局面が影響を与える人間行動の特徴について理解するとともに、精神心理的な相談援助について考える。	
	現代家族と育児介護	高齢化社会の進展に伴う核家族化や単身世帯の増加など現代社会が抱える問題点や課題点についての認識を深めるとともに、現代家族の機能や役割と家族制度や家族関係をめぐる諸問題について考える。また、現代社会における子育て不安や児童虐待などの育児問題と育児制度のあり方について考察するとともに、介護問題の多様性と介護の重要性や家族介護のあり方について考える。	
	健康管理と身体活動	健康と疾病の連続性について理解したうえで、我々が何気なく過ごす日常生活における食欲、睡眠 生体リズム、ストレス現象等の生体現象を取り上げ、それらが如何に合目的な現象であるかについて理解する。また、身体活動や運動がメンタルヘルスや生活の質の改善、健康の維持・増進、疾病の予防等に効果をもたらしているかについて理解するとともに、生活習慣予防やストレス解消のための基本的な知識と技能について学習する。	
	スポーツと運動科学	自己や他者が他者科学的な根拠をふまえた健康づくりや体力増進についてどのように実現できるかを考え、具体的な行動ができることを目的とし、身体の基礎知識として解剖学やトレーニング理論、身体の仕組みについて理解する。また運動を続けるために、コンディショニング、栄養、スポーツ心理に関する基礎的な知識と技能について学習する。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会の理解	日本社会と歴史文化	<p>(概要) 現代日本社会の実相や課題についての認識を深めるとともに、自らがよって立つ国や地域の伝統や習慣を歴史や文化の変遷と関連付けて考察することにより、現代日本事情への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤石田仁、⑩市東真一/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(⑤石田仁/7回) 少子高齢化社会・持続可能な社会・グローバル化・情報化社会等、時代の変化と共に社会に生じる変化や現代日本の特徴と課題についての考察を通して、現代社会の多様性や多面性を認識する。</p> <p>(⑩市東真一/6回) 日本の国家や象徴・精神などの生活様式について学ぶとともに、日本の郷土文化や生活文化の諸相についての考察を通して、我が国の伝統や習慣の歴史的な見方や文化的な捉え方について学習する。</p> <p>(⑤石田仁、⑩市東真一/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	生命科学と物理化学	<p>自然科学的な見方や考え方、事物や現象に対する探究心を高めることを目的として、生物の世界の成り立ちと、生命活動を支える仕組みを日常生活に関わりのある生物科学上の題材を取り上げて考察する。また、電化製品や自動車など身近な物品に使用されている化学製品や化学反応と身の回りで起きている化学的な現象について考究するとともに、物理的な事物や現象についての観察や実験を通して、物理の概念と原理や法則を理解する。</p>	
	情報社会とデータサイエンス	<p>データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AI利活用の最新動向を学ぶ。研究開発、医療、介護、環境などの各領域における事例を通して、社会で活用されているデータと、そのデータを処理するAIといった技術の利活用領域が広がり、技術を用いて日常生活や社会の課題解決が行われていることを知る。データやAIは万能ではなく、その利活用において個人情報保護や情報セキュリティなど、データ保護といった留意事項を知る。</p>	
	法律社会と法律問題	<p>社会を形成する一員としての責任と義務を理解し、社会を形成・維持するために必要となる法律や規範、契約などの目的や意義について理解するとともに、裁判員制度や生命医療などの身近な法律問題を取り上げて考察することで、法律社会への興味と関心を喚起する。また、日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会・内閣・裁判所等の政治機構など、日本国憲法の特質について理解を深める。</p>	
	福祉政策と福祉制度	<p>現代社会における福祉政策や福祉制度に関する理解と社会福祉の現状と課題についての認識を深めることを目的とする。生活困窮者、老人、児童、身体障害者等の社会的弱者に対する保護や援助など福祉問題に対する国や地方が行う福祉政策に関する具体的な事例を取り上げて考察し、福祉政策の果たす役割と今後の方向性について考えるとともに、生活水準の向上に向けた社会保障制度や社会保障サービスのあり方について考察する。</p>	
	日本国家と政治行政	<p>日本の政治の現状と課題について認識することを目的として、現代国家の成立と政府や政治の仕組みについて理解したうえで、政党政治や選挙制度、政治献金などの政治に関する諸問題を取り上げて考察することで、政治社会に対する興味と関心を喚起する。また、政治と行政の関係や行政が果たす役割と機能についての理解を深めることを目的として、国や地方の行政機関や行政制度、行政改革に関する諸課題について考察する。</p>	
	経済構造と経済政策	<p>社会的に重要な経済に関する主題や現代社会が直面する経済的な諸課題に関する知識と総合的に判断し対処する能力を養うことを目的とする。現代経済の基本的な概念と枠組みについて理解したうえで、経済問題や財政課題の多様性を認識し、経済的な見方や捉え方、考え方を身に付けるとともに、現代社会における経済構造と経済政策との関連性について理解することにより、現実の経済活動や経済現象に対する興味と関心を深める。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 の 理 解	現代医療と生命倫理	人口構造の高齢化による生活習慣病や退行性疾患の増加への対応をはじめ、先進医療の普及、終末期医療の充実、在宅医療・在宅ケアの推進など、現代医療の特徴や現状と課題について考察することにより、医療の将来展望について考える。また、生命に関わる倫理原則について解説するとともに、現代の生命倫理に関する諸問題について、臓器移植などの事例を取り上げて考察することで、命に対する多様な価値観や考え方について学習する。	
	国際社会と国際問題	国際社会で生じている諸問題に対する認識と現代社会における国際事情を、我が国だけからの視点にとどまらずグローバルな視野で把握し、解決する志向性を身に付けることを目的とした国際理解総論として位置付ける。国際的問題としては、宗教・民族対立、国際政治、地球環境保全等数多岐にわたるが、こうした課題に取り組む基本的な態度・姿勢・視点を身に付け、地球市民としての在り方や、グローバル・ゼーションの意義や理解を深める。	
	世界宗教と民族問題	思想の内容や特質について、思想史的な観点から考察するとともに、他民族国家内における民族間の利害問題、少数民族の問題、先住民族の既得権の問題など、民族にまつわる諸問題について考察する。また、世界三大宗教と特定の国や民族で信仰されている民族宗教や新興宗教について概観し、異なる宗教間や宗派の対立などの宗教問題について考察することで、世界の諸地域に暮らす民族集団や宗教社会に対する理解を深める。	
	世界動向と国際貢献	国際社会の成立から現代に至るまでの歴史と現状、課題を認識し、特に国際協力機関やODA、NGO等の活動についての理解を深めることにより、国際協調に貢献できる幅広い視野を身に付けることを目的とする。国際紛争や難民発生、自然災害、環境破壊、食糧危機などの国際社会で生じている諸問題の現状と背景についての認識と国際協力機関などの活動について理解を深め、国際貢献のための自らの日常生活の改善や工夫、活動の在り方について考える。	
	国際平和と安全保障	国際社会で生じている紛争やテロ問題について考察するとともに、核軍縮、核実験、核保有国、核兵器、核戦争などの核兵器問題と核拡散防止条約や核兵器禁止条約、部分的・包括的核実験禁止条約などの関連条約について学習する。また、安全保障と自衛権について考えるとともに、第一次・第二次世界大戦や原子爆弾と被爆者など、戦争や戦災についての考察を通して、世界と日本の平和問題についての理解を深める。	
	国際関係と日本外交	アジア・大洋州、北米、中南米、欧州、ロシア、中東、アフリカなど地域別に見た外交及び国際社会の平和と安定に向けた取組や地球規模の課題への取組、経済外交、日本への理解と信頼の促進に向けた取組など分野別に見た外交についての考察を通して、国際環境の変動や情勢認識と日本外交の展開について理解する。また、日本と韓国、中国、北朝鮮との関係や領土問題を取り上げながら隣接国との外交問題について考える。	
	地球環境と環境対策	大気汚染・水質汚濁・森林破壊・異常気象・自然災害・自然保護等の自然環境、公害問題・騒音問題・廃棄物処理・二酸化炭素削減等の社会環境、持続可能社会・循環型社会・環境共生都市等の都市環境など、地球規模で生じている様々な環境現象の題材を取り上げて考察することで、環境に対する探究心を高めるとともに、環境劣化・環境汚染・環境破壊・環境攪乱などの課題認識と環境問題や環境対策に関する理解を深める。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目  専門導入科目	地域創生総論	<p>(概要) 地域創生の概念と定義及び地域創生学を学ぶ意義や目的の理解を通して、地域創生に対する興味喚起と動機付けを図るとともに、地域創生が果たす役割や重要性について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦矢尾板俊平、①野田陽子、③高木亨、②中島正博、⑥内山大介/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する</p> <p>(⑦矢尾板俊平/3回) 地域創生の概念と定義について概説したうえで、現代社会における地域創生や地域活性化に向けた動向について概観するとともに、今後における我が国の地域創生のあり方について考える。</p> <p>(①野田陽子/2回) 現代社会が直面する社会環境の変化に伴う地域社会を取り巻く社会事象について概説したうえで、人間の行為や社会の構造と変動などの視点から、地域社会の今日的な課題について考える。</p> <p>(③高木亨/2回) 地域の見方や捉え方について概説したうえで、各地域がそれぞれの特性や資源を活用し、自律的かつ持続的で魅力のある社会を作り出すことについての考え方や重要性について理解する。</p> <p>(②中島正博/3回) 地域創生における経済活動が果たす役割と重要性について概説したうえで、地域産業や地域企業による地域創生や地域活性化への様々な取組みについて概観する。</p> <p>(⑥内山大介/3回) 地域創生における文化活動が果たす役割と重要性について概説したうえで、文化活動や文化交流を通じた地域創生や地域活性化への様々な取組みについて概観する。</p> <p>(⑦矢尾板俊平、①野田陽子、③高木亨、②中島正博、⑥内山大介/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	社会学	社会学を学ぶ意義と目的について概説し、社会学の定義や特性と理論枠組みについて解説するとともに、社会の仕組みや社会を構成する諸領域について解説する。そのうえで、社会現象の実態や現象の起こる原因に関するメカニズムについて、社会生活・社会組織・社会問題などを取り上げ、人間の社会的行為と関連づけながら考察することで、社会現象の本質の理解と現代社会の多様性や多面性を認識するとともに、社会学的な見方や捉え方、考え方について学習する。	
	文化学	文化学を学ぶ意義や目的について概説し、文化を構成する領域について解説するとともに、人間の創造的な営みである文化の概念や意義とその多様性や文化の普遍性と共通点について考察する。そのうえで、文化学の視点から社会の形成や変容のメカニズムについて考察し、文化形成の原理について理解するとともに、文化的な見方や考え方について理解する。また、地域の伝統的な郷土文化や生活文化の諸相について考察し、地域文化の多様性や特性について理解する。	
	経済学	経済学を学ぶ意義と目的及び経済の仕組みや概念と現代社会における経済の果たす役割や機能について概説し、日本経済の現状と課題や日本経済を取り巻く環境について解説する。そのうえで、市場の役割と課題や日本における経済成長の現状と要因について解説し、景気循環の局面と仕組みや景気循環を表す指標及び物価と景気の現状や変動の要因について考察するとともに、日本における財政政策と金融政策の現状と課題について、具体的な事例と関連付けて考察する。	
	地理学	地理学を学ぶ意義と目的について概説するとともに、日本の地域の構成の特徴や特性及び社会的事象の地理的な見方や考え方について解説する。そのうえで、地理に関わる事象の意味や意義と特色や相互の関連について、位置・分布・場所・環境・地域などに着目して、多面的かつ多角的に考察するとともに、地図や地理情報などを用いて、地理情報から地域に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめるための方法について学習する。	
専門基盤科目			

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	人口論	我が国の人口減少の見通しやその影響について概観し、人口の長期的な推移や我が国の人口に関わる施策について概説したうえで、人口減少社会を取り巻く背景と現状や人口減少克服に向けた取組みについて解説する。そのうえで、人口減少時代の到来や人口減少が経済社会に与える影響など、人口問題に対する基本認識について理解するとともに、地域が抱えている人口問題の考察を通して、人口減少社会において地方創生に取り組む際の方向性について考える。	
	資源論	資源の定義や概念と分類について概説したうえで、資源の多様性や有用性について解説するとともに、資源の開発や利用の歴史について概観する。そのうえで、資源が果たす役割の重要性や資源を用いて行う資源活用事業の促進に関する施策の動向について概説し、資源をめぐる諸問題の特徴や特殊性と資源問題の解決の方向について考察するとともに、地域経済の活性化を推進するための資源管理や資源利用のあり方について、具体的な事例を取り上げながら考察する。	
	社会集団・組織論	継続的な社会関係を通じて形成される人々の集合体である社会集団や社会の基礎的な構成要素である組織の定義と機能や特徴について概説し、社会集団の成立要件や特性と社会集団の類型化及び社会集団の形成・維持・存続のメカニズムについて解説する。そのうえで、現代社会における集団や組織をめぐる諸問題を取り上げながら、集団現象や組織現象についての原理論的な検討を通して組織論の基本理論とその実践的な活用方法について学習する。	
	社会構造・変動論	社会及び社会システムについて概説したうえで、社会関係、集団・組織、コミュニティ・社会・世界システムなど相互行為のパターン化された側面である社会の構造及び役割・地位・規範・価値など社会システムの構造的要素について学ぶとともに、社会の構造を生み出す作用としての構造化について学習する。そのうえで、社会構造の変化である社会変動及び経済的要因、政治的要因、文化的要因、人口的要因など社会システムの変動要因について学習する。	
	社会政策・制度論	社会において発生した問題を解決するための公共政策の体系について概説するとともに、社会政策の意義と歴史や背景について解説する。そのうえで、社会保障の目的と機能について解説し、社会保障制度全般の特徴を紹介するとともに、各制度の概略について解説する。また、現代社会が直面する労働政策や雇用政策に関するテーマを取り上げながら、現代社会で生じている労働問題や雇用問題の考察を通して、社会政策や社会制度の現状と課題や今後の行方について学習する。	
	社会心理学	社会心理学を学ぶ意義と目的について概観したうえで、日常生活の中で生じる人のこころと行動の仕組みや法則性について解説するとともに、社会的な場面における個人の行動から組織の行動や群衆の行動及び現代社会における社会現象や社会問題について学習する。そのうえで、現代社会と密接に関わるテーマや地域社会が直面する問題や課題を取り上げ、科学的方法による考察を通して、現代社会の諸問題を社会心理学的に分析し、読み解くことについて学習する。	
	文化社会学	文化社会学を学ぶ意義と目的及び文化社会学の概念と基本的な見方や考え方について概説したうえで、現代における社会現象の内容としての文化の現状と課題について解説する。そのうえで、政治や経済などをはじめ、どのような社会現象にも見出すことのできる文化的な側面に着目し、文化諸要素間の関係及び文化全体の性格を社会と関連させながら、その文化的な側面がどのように作用しているのかについて考察する。	
	産業社会学	産業社会学を学ぶ意義と目的及び産業社会学の特徴と基本的な見方や考え方について概説したうえで、産業及び産業社会の概念について解説するとともに、戦後日本の産業社会の歴史的な変遷について概観し、産業構造や雇用構造の長期的な推移について理解する。そのうえで、職場組織と人間関係、労働者意識と雇用形態の変化や就業形態の多様化、労使関係や労働組合と労働運動などについての考察を通して、現代社会を支える産業社会の仕組みや見方について理解する。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基幹 科目	社会問題論	<p>(概要) 現代社会において実際に生じている社会問題の多様性や多面性について理解するとともに、現代社会を取り巻く社会問題の本質の理解と社会問題の解決にむけた取組みについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(①野田陽子、⑤石田仁/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(①野田陽子/7回) 社会問題の客観的側面と主観的側面の認識及び顕在的社会問題と潜在的社會問題の概念的識別について解説したうえで、社会問題と社会病理との関係性、逸脱の捉え方について考究する。</p> <p>(⑤石田仁/6回) 現代的な社会問題の特徴と性質について解説したうえで、社会問題に対する社会学的な見方や考え方とその対処法について、実際に生じている社会問題を取り上げながら考察する。</p> <p>(①野田陽子、⑤石田仁/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域社会・文化論	<p>(概要) 現代地域事情における社会的な見方や文化的な捉え方について学ぶとともに、地域社会や地域文化の多様性や多面性の考察を通して、地域の社会や文化の実相について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤石田仁、⑥内山大介/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(⑤石田仁/7回) 現代日本の地域社会における現状分析と地域社会の歴史的な変動過程を捉え、地域社会の仕組みや特性と地域社会が抱える諸問題について学ぶとともに、地域社会の今後について考える。</p> <p>(⑥内山大介/6回) 地域文化が果たす意義や役割について概説したうえで、地域の文化的な特質について地理的条件や歴史的背景を踏まえて考察するとともに、文化の源泉としての地域の多様性について考える。</p> <p>(⑤石田仁、⑥内山大介/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域振興・交流論	<p>魅力ある地域社会を実現するための地域振興や地域交流の促進について、地域の歴史や伝統に基づく文化に着目し、文化行政や社会教育行政の観点から地域振興や地域交流の取組みについて解説する。そのうえで、全国各地に息づいている多様で豊かな文化を活かした地域振興につながる取組みや地域ごとの特色ある文化を活かした地域交流のための活動やイベントなどの具体的な事例の考察を通して、今後における地域振興や地域交流のあり方について学習する。</p>	
	地域産業・企業論	<p>地域産業や地域企業の歴史的変遷や発展過程について概観し、地域産業の形成や産業構造の移り変わりについて学ぶとともに、地域と産業や企業の関わりと特質及び地域における商業が果たす機能や役割など、地域の経済産業事情について解説する。そのうえで、地場産業や地場産業の推移と特徴、産地型の産業集積、地場産業の諸相と方向性、地場産業の現状と課題、地域産業の振興の課題や展望などの考察を通して、地方圏における産業や企業の将来的な発展について考える。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域経済・財政論	<p>(概要) 地域経済を取り巻く環境と経済社会の中で地域が果たす役割について学習するとともに、地方公共団体の経済活動である地方財政の仕組みや地方財政活動の現状と課題について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦矢尾板俊平、②中島正博/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(⑦矢尾板俊平/8回) 地域の経済活動や経済動向及び経済政策の特色や軌跡と展望について概観したうえで、地域間の所得格差や産業集積などに関する比較分析を通して、地域経済の現状と課題について考察する。</p> <p>(②中島正博/5回) 国と地方の財政関係及び地方財政に関する制度や仕組みと機能について解説したうえで、地方財政における負担構造の変化をはじめとする地方財政をめぐる今日的な諸課題について考察する。</p> <p>(⑦矢尾板俊平、②中島正博/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域政策・制度論	<p>地域政策の概念と意義や地域政策における政府や地方公共団体が担う役割について解説したうえで、地方分権化が進行する中で、地域の魅力を高めるための地域づくりや地域活性化などに関する地域政策の在り方や最新の動向について、具体的な事例を取り上げながら考察する。また、地域格差の是正をはじめとする振興計画や各種支援施策等について解説するとともに、地域の自立促進に向けた地域振興に関する法律や制度について学習する。</p>	
	比較地域論	<p>地域を相対比して理解するための比較地域学の対象と方法について解説したうえで、地域の成り立ちと地域の社会や文化の基層構造や社会変動について、実際の地域における類似と差異の分析や検討を通じて、地域の共通性と個別性や地域における変動の特徴について明らかにするとともに、比較分析結果を通して、多面的な検証を行うことにより、比較地域学的な見方や考え方や基礎的な比較分析手法について学習する。</p>	
	地域文化活動論	<p>(概要) 全国各地に息づいている多様で豊かな文化を活かした文化活動について学ぶとともに、地域の特色ある文化を活かした地域振興につながる文化活動の取組みやあり方について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥内山大介、⑧森屋雅幸、⑪市東真一/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(⑥内山大介/5回) 地域の歴史や風土などに培われた特色ある伝統的な文化を継承・発展させるとともに、地域から新しい文化活動を創造し発信していくための具体的な取組みや環境の整備について考察する。</p> <p>(⑧森屋雅幸/4回) 文化財の活用による地域振興の具体的な事例を取り上げ、地域文化活動による効果について考察するとともに、観光産業をはじめとする文化関連産業による文化活動の動向について考察する。</p> <p>(⑪市東真一/4回) 都市祭礼の具体的な事例を取り上げ、社会構造が変容する中でも都市祭礼が継承され、新たな文化資本となった要因についての考察を通して、地域の文化や伝統の価値や意義について学ぶ。</p> <p>(⑥内山大介、⑧森屋雅幸、⑪市東真一/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展 開 科 目	地域文化資源論	地域における文化資源の概念や定義と分類及び文化資源の持つ多面的な意義について概説したうえで、地域振興や地域活性化における文化資源を有効的に活用することの重要性について解説する。そのうえで、地域における文化資源の状況や文化資源の活用による地域振興に関する具体的な事例の考察を通して、文化資源の活用を支える制度や手法について学ぶとともに、文化資源の活用による地域振興や地域活性化のあり方や実現性について考える。	
	地域文化政策論	<p>(概要) 地域の自立促進を図り、魅力ある地域社会を実現するための地域の特性や実情に応じた文化の振興や活性化に係る方策や制度について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥内山大介、⑧森屋雅幸/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(⑥内山大介/7回) 文化政策の概念と意義や役割について概説したうえで、地域の魅力を高めるための文化政策の特徴について解説するとともに、国や地方自治体による文化政策の最新の動向について学習する。</p> <p>(⑧森屋雅幸/6回) 文化財保護に関する施策や支援制度について概説したうえで、文化財保護政策の具体的な取り組み事例の分析や検討を通じて、地域文化を一層振興するための政策のあり方について学習する。</p> <p>(⑥内山大介、⑧森屋雅幸/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	文化財・文化施設論	<p>(概要) 将来の地域づくりの核となる文化財について学び、地域文化と地域交流の拠点としての文化施設について学ぶとともに、地域の文化財や文化施設を生かした地域の活性化について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥内山大介、⑧森屋雅幸/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(⑥内山大介/7回) 文化財の対象や類型及び文化財の保存と活用に関する基本的な考え方について概説するとともに、文化施設の果たす意義や役割について、博物館運営や博物館活動を取り上げながら考察する。</p> <p>(⑧森屋雅幸/6回) 文化財保護に関する普及啓発活動について概説するとともに、文化財や博物館などの文化資源や文化施設の活用による地域づくりの取り組みについて、具体的な事例を取り上げながら考察する。</p> <p>(⑥内山大介、⑧森屋雅幸/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域中小企業論	地域の中小企業の現状と役割及び中小企業の量的・質的定義、自営業者・ベンチャー企業・中堅企業等の中小企業類型、地域の中小企業の数の推移、開業・廃業の状況とその要因など中小企業の構造的特質について解説する。そのうえで、中小企業の問題性と貢献性、中小企業の労働問題、中小企業と下請制、中小企業の存立分野と産業集積、地域における中小企業の経営上の課題等についての考察を通して、地域創生における中小企業が果たす役割について学習する。	
	地域産業資源論	地域における産業資源の概念や定義と分類及び産業資源の持つ多面的な意義について概説したうえで、地域振興や地域活性化における産業資源を有効的に活用することの重要性について解説する。そのうえで、地域における産業資源の状況や産業資源の活用による地域ビジネスの振興や起業・創業支援に関する実践事例の考察を通して、産業資源の活用を支える制度や手法について学ぶとともに、産業資源の活用による地域振興や地域活性化のあり方や実現性について考える。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域産業政策論	産業政策の概念と意義や役割について概説したうえで、地域の魅力を高めるための産業政策の特徴について解説するとともに、地域の特性や実情に応じた地域産業の振興や活性化における国や地方自治体の果たす役割と機能について理解する。そのうえで、地域資源の活用による新商品開発・新技術開発などの起業化支援や地域中小企業の連携による地場産業創出・育成支援などの国や地方自治体による産業政策の最新の動向について学習する。	
	新事業・商品開発論	<p>(概要) 現代市場の動向と市場調査や市場活動について学び、消費者行動をはじめとする顧客理解について理解するとともに、商品企画や事業計画及び流通とプロモーションの展開について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④渡邊誠, ⑫木暮美菜, 井上善美/1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(井上善美/5回) 現代市場と市場環境の変化について概説したうえで、市場調査の目的と方法や結果の分析について学ぶとともに、製品政策・価格政策・チャンネル政策・プロモーション政策について学習する。</p> <p>(⑫木暮美菜/3回) 消費者の意思決定の過程と購買行動や消費者行動に影響を及ぼす要因及び商品購入後の満足やロイヤリティの形成などに関する考察を通して、商品開発にむけた消費者心理について学習する。</p> <p>(④渡邊誠/5回) 新事業や商品の開発にむけた仕組みや戦略について解説するとともに、商品の企画と事業の計画及び流通とプロモーションのあり方について、実践的な事例を取り上げながら学習する。</p> <p>(④渡邊誠, ⑫木暮美菜, 井上善美/1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域理解実習Ⅰ	地域創生に対する興味や関心を引き出すための動機付けを図ることを目的として、地域理解実習Ⅰから地域理解実習Ⅵを通して、教員の引率のもと、多様な地域の姿を直接的に観察する見学実習を行う。具体的には、現地を訪れ、直接的に観察し、関係者に対する聞き取りや現地における資料や情報の収集などを通じて、地域の現状や諸課題についての認識を深める。地域理解実習Ⅰでは、実習の目的や内容と評価について理解するとともに、実習の進め方や留意点について学習する。	共同
	地域理解実習Ⅱ	地域創生に対する興味や関心を引き出すための動機付けを図ることを目的として、地域理解実習Ⅰから地域理解実習Ⅵを通して、教員の引率のもと、多様な地域の姿を直接的に観察する見学実習を行う。具体的には、現地を訪れ、直接的に観察し、関係者に対する聞き取りや現地における資料や情報の収集などを通じて、地域の現状や諸課題についての認識を深める。地域理解実習Ⅱでは、地域社会の仕組みや特性と維持・継承について理解し、地域社会が抱える諸問題についての認識を深める。	共同
	地域理解実習Ⅲ	地域創生に対する興味や関心を引き出すための動機付けを図ることを目的として、地域理解実習Ⅰから地域理解実習Ⅵを通して、教員の引率のもと、多様な地域の姿を直接的に観察する見学実習を行う。具体的には、現地を訪れ、直接的に観察し、関係者に対する聞き取りや現地における資料や情報の収集などを通じて、地域の現状や諸課題についての認識を深める。地域理解実習Ⅲでは、地域の文化的な特質について地理的条件や歴史的背景から理解し、文化の多様性について認識を深める。	共同
	地域理解実習Ⅳ	地域創生に対する興味や関心を引き出すための動機付けを図ることを目的として、地域理解実習Ⅰから地域理解実習Ⅵを通して、教員の引率のもと、多様な地域の姿を直接的に観察する見学実習を行う。具体的には、現地を訪れ、直接的に観察し、関係者に対する聞き取りや現地における資料や情報の収集などを通じて、地域の現状や諸課題についての認識を深める。地域理解実習Ⅳでは、地域産業や地域企業の歴史の変遷や発展過程を理解し、地域と産業や企業の関わりについて認識を深める。	共同

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 実習 科目	地域理解実習 V	地域創生に対する興味や関心を引き出すための動機付けを図ることを目的として、地域理解実習 I から地域理解実習 VI を通して、教員の引率のもと、多様な地域の姿を直接的に観察する見学実習を行う。具体的には、現地を訪れ、直接的に観察し、関係者に対する聞き取りや現地における資料や情報の収集などを通じて、地域の現状や諸課題についての認識を深める。地域理解実習 V では、地域資源の開発や利用の実際について理解し、地域資源の多様性や有用性と活用法について理解を深める。	共同
	地域理解実習 VI	地域創生に対する興味や関心を引き出すための動機付けを図ることを目的として、地域理解実習 I から地域理解実習 VI を通して、教員の引率のもと、多様な地域の姿を直接的に観察する見学実習を行う。具体的には、現地を訪れ、直接的に観察し、関係者に対する聞き取りや現地における資料や情報の収集などを通じて、地域の現状や諸課題についての認識を深める。地域理解実習 VI では、地域理解実習 II ～ V を通して得られた知識と経験を振り返り、実習を経て得られた成果と課題を省察する。	共同
	地域調査法入門	地域調査の調査企画から報告書作成までの全過程を学習し、地域調査の知識や技法を用いて地域動向や地域事象等をとらえるための基本的な調査方法や分析手法について学習する。具体的には、地域調査の意義と目的や諸類型に関する基本的な事項について解説したうえで、調査方法、調査倫理、調査の種類、量的調査と質的調査、統計的調査、事例研究法、学術調査、世論調査及び調査票調査やフィールド・ワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程について学ぶ。	共同
	地域調査法演習	地域調査により資料やデータを収集し、分析する形にまで整理する具体的な方法について学習する。具体的には、調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理など、調査設計と実施方法について実践的に学習する。そのうえで、基本的な資料とデータの分析、地域調査に必要なとなる統計学、多変量解析の方法、質的な調査と分析の方法について学習する。	共同
	地域調査法実習	調査の企画から報告書の作成まで、地域調査の全過程について体験を通じて学習する。具体的には、調査の企画、仮説の構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の設定、サンプリング、調査票の配付・回収、面接等のデータ収集などの実施、インタビューなどのフィールド・ワーク、フィールドノートの作成、エディティング、集計、分析、仮説の検証、報告書の作成、アプリケーションソフトを活用したデータ分析など、地域調査を実際に経験し学習する。	共同
	地域資源活用入門	(概要) 地域における資源の発掘や活用の現状と動向及び地域資源の活用方法について学ぶとともに、地域資源を活用した地域ブランド化及び地域資源活用に対する補助金等の支援について学習する。  (オムニバス方式/全 15 回)  (②中島正博、③高木亨、⑨唐澤克樹/1 回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。  (⑨唐澤克樹/7 回) 地域資源の定義と概念や種類について概説したうえで、地域資源の活用の動向と課題について学ぶとともに、地域資源の発掘や活用の方法について、具体的な事例を取り上げながら考察する。  (③高木亨/3 回) 地域資源の活用による地域イメージの形成や地域ブランドづくりに関して概説するとともに、地域の魅力を高めるための地域ブランド戦略について、具体的な事例を取り上げながら考察する。  (②中島正博/3 回) 地方創生事業を推進するための交付金の仕組みと推移について概説したうえで、地域資源を活用した地方創生に係る施策を推進するための国からの財政支援とその活用法について学習する。  (②中島正博、③高木亨、⑨唐澤克樹/1 回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同 (一部)

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域資源活用演習	地域振興や地域活性化にむけた地域資源の掘り起こしや洗い出しから、地域資源の活用による新たな商品やサービスを企画・開発し、事業化へと結び付けていく取組みについて、実際の地域資源の活用事例を取り上げながら考察する。そのうえで、地域に埋もれていた資源の発掘及び資源を活用した商品の開発や事業の展開により、地域経済の活性化を遂げた事例を取り上げ、文献検索、資料収集、資料分析、意見交換等を通じて、地域資源の活用方法のあり方について考察する。	共同
	地域資源活用実習	地域資源活用入門及び地域資源活用演習において習得した地域資源の活用に関する知識や能力の定着を図るとともに、それらを地域資源活用の場面で実践するための応用力を修得する。具体的には、地域資源を活用した新たな商品やサービスの企画・開発等の促進や新規事業の展開、地域資源の魅力発信などに取組む地域の現場を訪れ、直接的に観察し、関係者に対する聞き取りや資料及び情報の収集などを通じて、地域資源の活用に関する様々な方法や手順についての理解を深める。	共同
	地域創生実習Ⅰ	少人数のグループにより、専門教育における各科目で習得した知識と技能を地域の場で活用し実践する経験を通して統合することで、地域創生に関する基礎的・基本的な知識や能力の定着とともに、理論と実践の往還による実践力や応用力を修得する。地域創生実習Ⅰでは、実習目的の明確化を図るとともに、地域の文化資源や産業資源を活用した地域創生や地域活性化に関する実習課題や実習目標の設定と実習課題の発見を通して、地域創生や地域活性化の活動への参画意識を高める。	共同
	地域創生実習Ⅱ	少人数のグループにより、学部教育における各科目で習得した知識と技能を地域の場で活用し実践する経験を通して統合することで、地域創生に関する基礎的・基本的な知識や能力の定着とともに、理論と実践の往還による実践力や応用力を修得する。地域創生実習Ⅱでは、地域の文化資源や産業資源を活用した地域創生や地域活性化に関する実践事例を取り上げ、文献講読、資料分析、現地観察、現地調査等による考察を通して、課題に対する考え方や対応策について分析・検討する。	共同
	地域創生実習Ⅲ	地域創生実習Ⅲでは、地域創生実習Ⅰ及び地域創生実習Ⅱの学修を受けて、一定の期間にわたり、地域における文化資源や産業資源を活用した地域創生や地域活性化に関する諸活動の支援や補助業務などを体験することにより、地域現場をより深く理解し、地域創生に係る職業を担うための実践力や応用力を高める。また、地域資源の活用による地域振興や地域活性化に関わる様々な職種との連携や協働を通して、地域創生における各々の果たす役割や機能について理解を深める。	共同
専門 研究 科目	卒業研究	これまでの学部教育において修得した地域創生に関する知識、技能、態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる総合的な実践力を養成する。具体的には、地域資源を活用した地域創生や地域活性化に関する研究課題の設定から、文献検索、資料収集、事例研究、現地調査、結果分析、意見交換等を繰り返しながら、自己の考えを展開することについて学ぶとともに、研究課題に関する成果発表に向けた学習を行う。	

学校法人大乘淑徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
淑徳大学				淑徳大学				
総合福祉学部				総合福祉学部				
社会福祉学科	200	-	800	社会福祉学科	200	-	800	
教育福祉学科	150	-	600	教育福祉学科	150	-	600	
実践心理学科	100	-	400	実践心理学科	100	-	400	
コミュニティ政策学部				コミュニティ政策学部				
コミュニティ政策学科	95	-	380	コミュニティ政策学科	95	-	380	
看護栄養学部				看護栄養学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
栄養学科	80	-	320	栄養学科	80	-	320	
経営学部				経営学部				所在地の変更 特定地域外から特定地域内へ所在地 の変更 東京都板橋区前野町6丁目36番地4号 定員変更(40)
経営学科	110	-	440	経営学科	150	-	600	
観光経営学科	90	-	360	観光経営学科	90	-	360	
				地域創生学部				学部の設置(届出)
				地域創生学科	95	-	380	
教育学部				教育学部				
こども教育学科	150	-	600	こども教育学科	150	-	600	
人文学部				人文学部				
表現学科	85	-	340	表現学科	85	-	340	
歴史学科	60	-	240	歴史学科	60	-	240	
				人間科学科	100	-	400	学科の設置(届出)
計	1220	-	4880	計	1455	-	5820	
淑徳大学大学院				淑徳大学大学院				
総合福祉研究科				総合福祉研究科				
社会福祉専攻科(M)	5	-	10	社会福祉専攻科(M)	5	-	10	
社会福祉専攻科(D)	3	-	9	社会福祉専攻科(D)	3	-	9	
心理学専攻科(M)	15	-	30	心理学専攻科(M)	15	-	30	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	5	-	10	看護学専攻(M)	5	-	10	
計	28	-	59	計	28	-	59	
淑徳大学短期大学部				淑徳大学短期大学部				
健康福祉学科				健康福祉学科				
社会福祉専攻	50	-	100	社会福祉専攻	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
介護福祉専攻	40	-	80	介護福祉専攻	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
こども学科	250	-	500	こども学科	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
計	340	-	680	計	0	-	0	